



著者プロフィール

金原知典（きんばら・ともりのり）

昭和37年 東京生れ

平成10年 「屋根」入会

平成13年 「屋根」新人賞受賞

現在 「屋根」同人

俳人協会会員

〈句集『白色』より転載〉〈2009年6月11日時点〉

『白色』（自選15句）

金原 知典

白椿いつか日向に落ちておし  
銀閣へゆかず曲り春惜む  
垂れゆくを止むるちから花菖蒲  
羽のあと胸が横切り鬼やんま  
雪片を見入ればおそく雪早し  
根方まで一本の鶏頭であり  
鎌倉に線路はなじみ花芒  
羽たたみいま空にあり石たたき  
割るとき追ひつく重み寒卵  
花の向き迷ひなかりし梅白し  
諸人に柄杓のかるき花御堂  
桜蓼にふれ青郵の句碑に触れ  
食ひし水ぼたぼた零れ鴨の嘴  
屋過ぎの明るさかなし冬に入る  
しばらくは白の香りや梅林